

「南区防災力向上モデル」に関する「ひらめき」や「アイデア」のとりまとめ

対象の柱	短期的な取組（1～3年）	長期的な取組（3～10年）
第1の柱： オール南区で防災意識を高め、備えを確かなものにしていく	<p>【訓練】</p> <p>①地域、学校、企業、協働で防災訓練を行う。</p> <p>②地域に即した訓練を考えて実施する。</p> <p>【点検】</p> <p>③平時から災害が起きた時を想定し、家の中の危険個所を点検する。</p> <p>【広報等による啓発】</p> <p>④広報を活用する。ポスターを作成する。標語や図画を募集する。</p> <p>⑤防災キャラクターをつくる。</p> <p>【その他の取組】</p> <p>⑥南区防災イベントを立ち上げる（ふれあいまつりのように自治会加入者のみの抽選券付きプログラムの配布はしない）。誰でも参加できる。地域防災情報など。</p>	<p>【訓練】</p> <p>①地域、学校、企業、協働で防災訓練を行う。</p> <p>【点検】</p> <p>②平時から災害が起きた時を想定し、家の中の危険個所を点検する。</p> <p>【広報等による啓発】</p> <p>③南区の防災拠点となる展示スペースを充実する。</p> <p>【その他の取組】</p> <p>④南区防災力向上モデルの5つの柱を実践する。</p> <p>⑤毎年、情報を更新しながら防災力を高めていく。</p> <p>⑥防災士を養成する。</p> <p>⑦定期的・長期的に開催することを念頭に計画する。</p>
第2の柱： 誰ひとり取りこぼさない「防災福祉」を進めよう	<p>【交流】</p> <p>① 障害者、高齢者、乳幼児の家庭と平時からつながりを持つ。</p> <p>【広報等による啓発】</p> <p>②「防災福祉」の言葉を啓発する。</p> <p>【その他の取組】</p> <p>③紙面上、届け出上の数字ではなく、実際の受け入れ可能数を把握し、発災時に災害弱者の避難（自宅・福祉避難所）について、どのようにつなげるかを具体化する。</p> <p>④福祉施設の災害対策マニュアルを活用する。</p> <p>⑤福祉避難所見学会を設定する。</p>	<p>【交流】</p> <p>①障害者、高齢者、乳幼児の家庭と平時からつながりを持つ。</p> <p>②自治会・福祉・民生だけではなく、草の根、顔の見える範囲での気づきを大事にする。この考えを地域に根付くように、啓発・統一した運用をめざし、訓練を実施する。</p> <p>【訓練】</p> <p>②自治会・福祉・民生だけではなく、草の根、顔の見える範囲での気づきを大事にする。この考えを地域に根付くように、啓発・統一した運用をめざし、訓練を実施する。（再掲）</p> <p>③統一した運用をめざすため、訓練を実施する。</p> <p>【広報等による啓発】</p> <p>④防災福祉の語り部やリーダーを養成する。</p> <p>【その他の取組】</p> <p>⑤福祉避難所を拡充する（学校施設も活用する）。</p>
第3の柱： 既存の枠組みをこえた“あたらしい共助”のかたちを確立しよう	<p>【枠組み拡大】</p> <p>①地域、学校（小学生から大学生まで）、企業等を共助の仕組みに取り込む。</p> <p>②防災に関する職業の方を、共助の仕組みに取り込む。</p> <p>③避難所になり得る場（小・中・高・大学、公園管理者、委託先事業者、ショッピングモールなど）と各地域の連携した防災組織を作る。その上で、イベントとしての避難訓練を実施する。</p> <p>【訓練】</p> <p>③避難所になり得る場（小・中・高・大学、公園管理者、委託先事業者、ショッピングモールなど）と各地域の連携した防災組織を作る。その上で、イベントとしての避難訓練を実施する。（再掲）</p> <p>【その他の取組】</p> <p>④備蓄品の内容を把握すること（地域会館）により、必要な物を交換・提供する。</p> <p>⑤自治会役員等へ啓発・研修を実施する。</p>	<p>【枠組み拡大】</p> <p>①地域、学校（小学生から大学生まで）、企業等を共助の仕組みに取り込む。</p> <p>②防災に関する職業の方を、共助の仕組みに取り込む。</p> <p>③地域内の事務所や教育機関に従事する方たちと、仕組みをつくる。</p> <p>【訓練】</p> <p>④校区を超えた中学校区単位の防災訓練を実施する。</p> <p>⑤民間の事業所等も活用した防災訓練を実施する。</p> <p>【その他の取組】</p> <p>⑥定期的に防災情報交換会を実施する。</p>

対象の柱	短期的な取組（１～３年）	長期的な取組（３～１０年）
<p>第４の柱： 防災を担う人材を育てよう ～防災人材育成の先進的な 都市（まち）をめざそう～</p>	<p>【対象拡大】</p> <p>①若い力を、防災士や防災リーダーとして育成する。 ②学生や子育て世代を防災士として育成する。 ③自治会を通じてではなく、南区住民・通学者・通勤者を対象として広く希望者を募る。 ④ちびっ子防災士を養成する。</p> <p>【その他の取組】</p> <p>⑤防災教育の推進による意識・知識の普及を図る。 ⑥学校で使える教材や映像を作成する。</p>	<p>【対象拡大】</p> <p>①若い力を、防災士や防災のリーダーとして育成する。 ②中学生を、防災士や防災リーダーとして育成する。 ③中学校区の児童・生徒による防災訓練を実施する。</p> <p>【その他の取組】</p> <p>④防災教育の継続的な実施により地域との連携を図る。 ⑤費用の補助を充実する。</p>
<p>第５の柱： 防災情報の共有手法を拡充し て、災害時も平常時も賢く活 用しよう</p>	<p>【ICT化】</p> <p>①アプリケーションを活用する。 ②平常時は、地域のイベントやお店（モール）のSNSとして定期的に防災情報を共有してもらい、それを活用して、災害時には、南区の緊急SNSの発信を広げることができる。</p> <p>【広報等による啓発】</p> <p>③広報等により啓発する。</p> <p>【その他の取組】</p> <p>④高齢者にとって、ICTの活用が困難な場合も多いので、アナログ（紙面）による情報共有も必要である。 ⑤各家庭に対して、防災に関するフローチャート図を配付する。</p>	<p>【ICT化】</p> <p>①各家庭への電子連絡掲示板を配付する。</p> <p>【その他の取組】</p> <p>②高齢者にとって、ICTの活用が困難な場合も多いので、アナログ（紙面）による情報共有も必要である。 ③勉強会を実施する。</p>